

## 第2回福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会 議事録

- 1 日 時 平成30年7月2日（月） 16:00～17:43
- 2 場 所 福島市役所4階庁議室
- 3 出席者 佐藤 滋 委員長、奥本 英樹 副委員長、菅野 廣男 委員、後藤 忠久 委員、齋藤 美佐 委員、霞 朝子 委員、原 馨 委員、三瓶 章 委員、門田 敦嗣 委員、紺野 喜代志 委員、◎池澤 龍三 委員
- 4 内 容
  - (1) 開会
  - (2) 議事
    - ① 第1回検討委員会の振り返り等について
    - ② 再編整備の基本的な方向性について
  - (3) その他
  - (4) 閉会
- 5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

### 6 委員の主な発言

○委員長 まず、再編整備のコンセプトについて、基本的な考え方について委員の皆様いかがでしょうか。今の時代に重要なキーワードである「持続可能な」という点など記されているのがいかがでしょう。高度経済成長期につくったものが今重荷になってしまっている。それから、県都として定住交流も含め、文化的にもグレードの高いまちという点もあります。ご意見をどうぞ。

○委員 この委員会に与えられた役割というのは、公共施設の戦略的再編整備にあたり、必要な機能の選択、優先順位づけの検討などであり、これはとても重たい仕事である。少なくとも、福島市の今後数十年間、中長期的に影響を与える問題であって、それに意見するとなれば、責任を伴うものである。なので、私はあまり具体的には意見は出しておらず、まず私の「街のヴィジョンを示してほしい」という意見に対し、総合計画や都市マスタープランの将来都市像が示されたのだと思う。このようなヴィジョンが無いままに検討はできない。

もう一つ大事なことは、どれだけのデータ、ファクトに基づいて議論がなされるか。第1回目の資料では情報が少なすぎる。施設の現況や、人口動態だけではなく、例えばコンベンション機能について中心市街地活性化、交流人口拡大の視点から必要と言っているが、交流人口拡大に繋がるというのは、どういうファクトに基づいて言っているのか。あるいは、市民会館や図書館、中央学習センターの稼働率が低いことについて、市

民のニーズと乖離があるとか、利便性の問題だと言っているが、市民のニーズはちゃんと聞いているのか。データやファクトに基づかないままにやってしまうと、つくった後に、結局ニーズと合っていなかったり、利便性が向上しなかったりする。仮に先進地事例で成功している街があったとしても、それはその街の特性があり、福島市独自の事情もあるのだから、しっかりと調べなければならない。さらに、今成功している街が50年後も成功しているかはわからない。しっかりとしたファクトマイニングに基づいた議論をしていかないと、思い付きは良いが、思い込みで決めてしまうと後々負の遺産をつくりかねない、負の再編をしかねないという不安感があつた。どのような調査やデータ、議論に基づいて市の考えが示されているのか示してほしい。

○事務局 各施設の部屋ごとの稼働状況についての調査結果を準備している。

○委員長 それらのデータをどのように解釈したのか、丁寧な説明が必要なのかと思われます。

○委員 前回の委員会において、それぞれの委員の受け止め方は多少違っていたのかなと思う。市長の言葉で言うガラガラポンは、一つにまとめるようなことかと思ったので、図書館の再編は非常に厳しいなと思っていた。福島市の特徴は文教都市だと思うので、こむこむやコラッセに図書館分館があり、学習センター図書室があることから、図書館本館がどうなるかと思ったが、今回の市の考え方が示され、思いが違ったようで良かったと感じている。

駅前活性化を含めて、市長のコンベンション機能をつくりたいという発想から、今回の検討委員会の流れが生まれているのかと思う。だとするならば、報道された駅前再開発の民間活力との整合性や、公会堂が休館となっている状況を踏まえると、コンベンション機能の必要性はあると思う。しかし、コンベンション一つで街中が活性化するなどあり得ない。だとするならば、老朽施設の機能をどのように融合し、人を呼び込むのが良いのだろうか。県都にふさわしい風格のある街というが、パセオ通りで店じまいする店舗もあり、営業を止める納豆食品会社もある。本当に県都にふさわしい風格のあるまちづくりをするのであれば、これらの建物を含め、どうしていくのかということが重要な話だと思う。

また、市役所新庁舎西棟についても、実施設計ができて7年が過ぎているが、老朽施設と消防機能を含めて考える必要があると感じている。消防機能が西棟予定地にあるのは良くないと思うが、先月の市議会の答弁によると、消防機能は国道4号線に近いところにつくるとのことだった。市が考える場所があるならばそれを示し、それに対する委員の意見を聞いた方が良いのではないかと思う。勝手に想像してしまうので、議会での質問もあるのだから、それらのことも委員に示したうえでの論議があるべきかと思う。

全体を通して、市のガラガラポンの考え方については、良かったなと感じている。

○委員長 時間の都合もあるので、全体の中で気になったことを述べていただきたい。また、資料やデータ関係については、次回までに事務局で整理して出していただきたい。

○委員 コンベンションについては、どのような機能を持たせるかによって、どのようなものをつくるかが変わってくる。どのような機能を持たせるかを最初に決めないといけない。すでにコラッセやアオウゼなど同じような施設がある。そこと競合するようなものをつくっても意味がない。新しくつくるコンベンション機能には、どのような使命をもたせて、どのような規模で、どのような機能を置くのかを議論すべき。

それと、図書館の機能についても、昔と今とではずいぶん変わってきていると思う。今、どれくらいの人が図書館の中で本を読んでいるのか。私の孫は、ほとんど借りてきて家で読んでいる。また、デジタル化が進んでいる中で、図書館が時代に合ったかたちになってもいいのかなと思うので、それを含めてどこにあるべきかを考えてはどうか。

○委員 図書館について、世代によって考え方もニーズも違う。どの世代に一番使って欲しいのかなど、しっかり考えてつくらなければならない。私の感覚では、図書館で勉強する子どもがいない。図書館では声を出せないし、飲み物も飲めない。しかし、実は勉強はグループでやった方が効率的である。例えばファミリーレストランなどで勉強している子どもを見てもったいないなと思う。図書館の機能も変わっていったいいのだと思う。公共施設の再編整備をしていくのであれば、これからのニーズ、将来世代が何を求めるのかを考えるのが、これからの街がどうなるべきかを考えることなので、ニーズやファクトをどのように捉え、どのように市として考えているのか示してほしい。

○委員長 今の段階でどのようなコンベンション機能を考えているのか。事務局よりお願いします。

○事務局 コンベンション機能強化による効果について、直接的効果、一時効果など、波及効果等について観光庁の調査結果から一般的には出ているが、市町村毎には出されていないため、福島市における具体的な効果を出すのは難しいところである。県レベルでの効果等が出せるかどうかについては、これから確認したい。また、具体的な機能をどうするかについては、これまで実施したMICE調査結果において、福島市においてどのようなコンベンション施設が望ましいのか、周辺都市の状況も含め調べたものがある。今回、単なるコンベンション施設の整備ではなく、既存の公共施設を複合化することで稼働率の向上や、波及効果を考える必要があるので、MICE調査結果や現在の市民の利用状況を勘案しながら内容検討されていくものと考えている。コンベンション機能については、方向性を位置づけたうえで、実際の施設整備の中で検討されていくものと考えている。なお、MICE調査結果については準備できるので、必要に応じて後日示すことは可能である。

○委員長 図書館について市はどのように考えているか。

○事務局 図書館については、現時点で具体的な構想は持ち合わせていない。

○委員長 委員からのご意見にもあったように、図書館は色々な機能、役割があり、決して肯定的な意味で申し上げるのではありませんが運営主体もカルチャーコンビニがカフェと一緒に展開し人気を博す事例もある。福島市ではどうか。一カ所に集めるのではなく、機能を分散という意見もある。何かご意見があればどうぞ。

○委員 図書館については色々な考え方があると思う。時代に合った図書館と言うが、今までの蓄積を次に伝えることも図書館の使命である。今、アクティブラーニングといって、小グループで議論しながら勉強するなど、学習方法が変わっている中で、図書館でもそのような部屋を積極的に取り入れることなどを検討している状況もある。時代によってニーズは変わるが、求めるニーズというのは一つの世代だけではなく、誰もが利用できる図書館であってほしいというのが基本的なものである。求める人たちというのは、高齢者も、子育て世代も、小さな子どもも多様なので、それが公共の図書館のあるべき姿だと思う。求められるものが変わっても、変わらないものも伝えていかなければならない。図書館機能が変わってくることはあると思うが、コンベンション機能の中に、本当にすべて複合化できるのだろうか。単独ではなくとも、関連する施設との複合館でかまわないので、落ち着いた形でとも思う。福島市は学習センター図書室が各地に分散していて、住民のニーズはある程度まかなえるが、中央館機能として必要なものはしっかりとつくって欲しい。

○委員 コンベンション機能のところで、公会堂機能を再編という考えがあるわけだが、コンベンションホールというのは一般的には平土間である。文化団体の立場で言うと、平土間では使いづらい。逆に芸術文化ホールで会議ができないかという、そうではなく対応できると思う。複合化の意味合いを考えると、文化活動ができるようなコンベンション機能も考えられるのではないか。ただし、その場合は規模の問題も議論されてくる。例えば千五百人規模の平土間だと稼働率の問題もでてくる。我々の経験からは、千人前後の中規模の方が稼働率が上がるし、ランニングコストも極端に変わってくる。長い目で見た場合、そのような点も含め十分に検討する必要があると考える。

○委員長 今のご意見は、一般的なコンベンション施設と言えば平土間であり、文化芸術には使いづらいということか。

○委員 残響時間なども違うので使いづらい。音楽堂だと残響時間が長すぎる。芸術団体が使う場合は1.1から1.2程度が良いと言われている。

○委員 コンベンションについて、福島市には大きいコンベンションが無い。現況だと、福島大学、福島県立医科大学、県庁もあるので、色々な会議が福島で開催されるのだが、残念ながら開催できず他都市に流れてしまうケースが多くある。今福島市に足りないと思定しているのは、ある程度規模のあるものである。中規模のホールは市内にもある。再編整備するのであれば、一つのホールでということではないが、機能として千人から

三千人規模の収容は必要と思う。また、展示会をする場所も福島市には無いので、その機能も含め必要だと考える。

○委員 福島県内のコンベンションホールと言えば、ビッグパレットふくしまである。ビッグパレットふくしまの稼働率は分からないが、駅前に大きな施設の必要性はあるかもしれない。パルセいいざかは、全国大会の開催に合わせて飯坂温泉の宿泊促進の目的があったが、実際はなかなか稼働していない。福島市でのコンベンション開催のニーズに応えるために駅前にコンベンション機能を整備するとしても、稼働率を考えるとコンベンションだけで活性化するとは思えないので、規模等の詳細な内容を示してほしい。また、民間活力と連携するならば、早い段階で、整合性がとれるように進める必要がある。

全体を通してみると、今回市役所新庁舎西棟の話が出てきている。私は非常に素晴らしいことだと思っている。生活の三原則は「水・太陽・空気」である。東日本大震災のときに、摺上川の水でなかったら市民生活はどうなっていたか。大きな問題だったと思う。また、市役所が旧庁舎だったならば、庁舎はペしゃんこになっていたはずである。災害に備えた施設が必要だと思っているので、西棟の実施設計はできてはいるが、これらの老朽施設の再編が論議された中で、合築された内容をお願いしたい。優先順位は1位だと思っている。

○委員 私もデータが足りないと思う。データは最終的に総量をどうするかという点で必要となる。公共施設等総合管理計画の視点から、総量制限があるのだから、どのくらいの規模が適正なのかという目安が分からなければならない。複合化もやみくもにくっつけるのではなく、同種類の施設を見たときに、重複している機能があれば、それほどの量が複数必要ですかという観点から、いらないのであれば複合化することになるので、利用実態を把握する必要がある。稼働率だけでなく、どういう人たちが、何の目的で、どこから来ているかなども把握できると望ましいが、全部分からないとしても、どこかのタイミングで総量をどうするかが示されるべき。どのくらいあれば良いのかが分かって、それがどこにあると市民にとって利便性が良いのかという議論の中で、どの施設と複合化できるのかという流れだと思う。

今回大きなフレームの中での検討としては、市民向けに行政サービスとして提供しなければならないものと、もう少し大きく考えて、交流人口の拡大や街の活性化など、人を域外から呼び込むものというコンセプトが両立していると思う。コンベンションの議論の中で、私が最初に思い浮かべたコンベンション施設というのは、東京ビッグサイトやパシフィコ横浜のような大規模展示施設に大規模会議場が併設されているものである。福島市でもそのような施設を目指すのか、違うのか、あまり明確になっていないように感じるので、コンセプトが必要だと思う。どういう機能に重点を置くのか、会議室なのか、産業振興のための展示スペースなのか。駅前に大きな展示施設となると、駅前再開発事業と連携する場合には、スペース的にハードルが高くなってしまいかもかもしれない。一方で、域外から多くの人を呼び込む大規模な学会であるとか、集会施設としてのホール機能であれば駅前に整備するケースはとでも増えている。新幹線やJRの駅とくっつ

けて何千人規模で整備することは多くなってきているので、それ自体は有効なのかと思う。もう一つ、場所については大事なことで、大規模な施設をつくる場合には種地をどこに置くのが課題となる。駅前への複合化について、比較的新しいケースだと、大分駅前に市民ホールと大規模会議場、中央図書館、子育て支援施設、産業支援施設を複合化したケースがあって、色々なことができるようになってきている。しかし、全部を整備すると大きな施設になってしまうので、そこで総量の話に戻ってくる。どういうものがどのくらいの規模で必要なかは十分検討する必要がある。

また、コンベンション施設のように、対外的に人を呼び込んでくる場合には、施設をつくる前から民間との連携が必要だと思う。一つはコンセプトの話で、どういう施設にするかという地元との調整。もう一つはどういう施設であれば人を呼び込めるのかというマーケットサウンディングや、福島市にはどのような競争力、優位性があるのかの把握。政策的な事業なので、それだけでは決められないが、利用者から見たとき、開発者から見たとき、運営者から見たときにどう見えるのかを把握する必要があると思う。

考え方として、集約・複合化は必要だと思うけれども、全部を一つにするよりは、外から人を呼び込み、市民も含め人を集めて回遊により活性化させる拠点としての駅前と、市役所新庁舎西棟については、市民向けに必要な機能として、スケジュールを考えたときには早期に必要とされ、整備できるものとなってくる。誰向けにやっているのかという部分と、どのくらいのタイムスケジュールが必要なのかという部分について、利用者のニーズと政策的な必要性という両面から考えていく。そのマトリックスをつくって、それをどうするか、その前提としてどのくらいの総量が適正なのかという俯瞰した考え方が必要なかと思う。

○委員 前回からつかみどころがなく、意見もなかなか出しづらく、悩んでいるところだが、意見を出すにあたり、管理費など一覧表にしてみた。すると、皆さんの税金でまかなわれている運営費について、かなり嵩んできている一方で、稼働率は大変低い。どこか機能を集約できるのであれば、人件費や管理費を縮減していくような方向にしなければならない。次の世代に持ち越すために、私たちがどういった負の遺産を減らしていくか。

各施設とも、運営委員会があると思うので、その中でどういった意見や課題があがっているのか、私たちが参考にできるようなデータや情報を出していただきたい。

公共施設等総合管理計画を見ると、縮減ありきなのかと思う。市民にとってそこに何があったら一番いいのかという視点は当然大事だが、今後の予算の組み方を考慮しながら、次の世代が管理費で苦労しないように、どういった複合化や縮減が良いのかを考えたい。コンベンション機能も、次の世代に喜んでもらえるような機能はどんなものなのか十分に議論できるよう、色々なデータを出していただきたい。

○委員長 事務局の方で、資料等について準備をお願いします。今回は、委員からの意見に対し、市の考え方が出てきているが、当たらずとも遠からずといった感じで、それほど問題のある内容ではないと思われるが、特に気になるところをご指摘いただきたい。

○委員 コンベンションに関するご意見がたくさん出ていたが、市の中心部にバランスよく施設を配置していただきたい。コンベンション中心となるとやはり駅前になってしまう。中央学習センターは170を超える利用団体が、元気に社会教育、生涯教育に携わっている。交流人口という意味でも学習センターに関して多くの人に関わっているので、コンベンションとは別にバランスよく配置していただきたい。

○委員長 市の中心部とは具体的にはどのあたりか。

○委員 できれば、中央学習センターの現在地か、あるいは建設延期中の西棟に入れれば、市としてバランスはよいかと思う。かなりの利用者があるので、駅前も便利ではあるが、現在地周辺が良いと考えている。

○委員 コンベンションにしろ、様々な機能を集約・統合するにしろ、福島市のインフラとセットで考える必要がある。インフラが足りない場合、そのインフラを整備する計画があるのかも含め考えないとうまくいかない。仮に新たなコンベンション施設で二千人規模の大きな会議を開催したとして、宿泊施設が足りない。駅前にコンベンション機能をつくって、東京からも仙台からも利便性が良い場合、宿泊せずに東京や仙台に帰ってしまうのではないか。

また、集約・複合化についても、住民視点で考えたときに、今の時代に重要な市民価値というのは高齢者、児童、障がい者だと思う。街中に集約させたときに、例えば乳幼児がいる子育て世代に、街中で何かさせたいときに、お母さんは毎回チャイルドシートに子どもを載せて街中に行くのか。小規模だけれども、ベビーカーを押していける場所に点在していた方がいい場合もある。インフラとしてバリアフリーであるとか、交通機関が充実している状況で集約するのであれば可能だが、そうではないかもしれない。インフラとセットで考えずに施設単体で考えてしまうと、齟齬が生じると思う。

○委員 消防本部に関する市の考え方について、将来に向かっては、福島市は現在単独消防だが、広域化も十分考慮された中で、災害時にはお互いに助け合う協定を結んでいると思うので、大型車両の配置も必要だし、福島警察署や県庁、市役所、消防署とが連携をとれる場所の選定が必要と考えている。避難所となる本庁舎西棟と消防機能を一緒にすることは無いようにお願いしたい。

○委員長 その他についてのご意見はあるでしょうか。市民会館について、市の考えとしては、機能に応じて駅前のコンベンションと市役所新庁舎西棟への再編とありますが、ケーススタディということで、ケース毎にメリットとデメリットなどを示してもらえると議論しやすいと思う。ポイントはコンベンション機能をどう考えるか。コンベンション機能の多くを駅前再開発事業と関連して考えるようになると思われる。再開発事業の基本的な考え方は、事業を検討する段階でマーケティング調査を行い、事業採算を考えるので、事業を決めきって縛ってしまうのは得策ではない。コンベンションの基本的な考え方は

この委員会でしっかりと議論して、出していきたいと思う。

○委員 先日、あづま総合運動公園で日米対抗のソフトボールの試合があった。宿泊は土湯温泉だったと思うが、それぞれ対応はうまくいったと思う。コンベンションも同じで、受け入れの対応が悪いと次回から使ってもらえない。これからは民間サービスも含めた必要性が出てくるので、ハードの再編だけでなく、商工会議所を通じた指導もお願いしたい。オリンピック本番に向けての準備の意味も含まれていたと思うので、全世界に発信されることを踏まえ、復興の意味でも福島に来てよかったなと思ってもらえるように対応してほしいと思う。

○委員 まちづくりで他都市の先進事例を見ると、その地域が持っている特性や強みをどうやって生かすかに着目してまちづくりをしている都市がうまくいっていると思う。福島市が持っている特性、強みを見て、何を強化していくことが将来の福島市にとってよいのか議論されて、公共施設の再編を考えるのが良いと思う。福島市の地理的な立地性は強みだと思っているので、十分に発揮できるのが良いと思う。

○委員長 立地性について、具体的にお願いしたい。

○委員 例えば、東北新幹線のほぼ中央に位置しており、東京や盛岡からも一時間半の移動時間であること。それから、奥羽本線の起点であり、山形新幹線も通っている。また東北中央自動車道も開通し、物流の拠点となるなど非常に優位性がある地区になった。交流人口拡大も含め、これらの立地優位性を活かすのが良いと考える。

○委員長 それから、サッカースタジアムと福島駅新東西自由通路については、これは市の考え方はすぐにつくるのは難しいということで、長期的な観点で検討したいということだが、それで良いか。課題であることは間違いないが、今議論しているものとは時間スケジュールが違うということである。この点についてはよろしいですね。

今回の検討委員会で市から示された考え方に大きな異論は無かったかと思うが、事務局には資料の準備をお願いすると、その他、委員の皆様が気付いた点があれば事務局までお願いしたい。